

科目名	児童福祉と家庭		必修・選択	選択 (保資必修)	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
	担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 年期 前 期		レポート	—
授業のねらいと概要	子ども家庭福祉の概要と福祉の実現について学ぶ。児童や家庭に関する身近な話題について情報交換しながら現代の課題について考える。								
到達目標	子どもの権利と子ども家庭福祉の基本的理念を理解することができる。子ども家庭福祉の現状、課題、取り組みについて理解することができる。子どもや家庭を取り巻く状況への関心が高まる。								
学習者への期待 (含準備学習)	社会福祉の一分野である子ども家庭福祉を、身近なテーマとしてとらえて学習してほしい。新聞やニュースで関連する情報を得ること。								
回	授業計画				授業内容				
1	オリエンテーション				児童(子ども)家庭福祉の理念と対象、福祉と保育				
2	子ども家庭福祉の現状(1)				少子化社会、子どもが育つ環境				
3	子ども家庭福祉の現状(2)				子育ての課題と支援				
4	子どもの権利保障				子どもの権利、権利宣言、権利条約				
5	子ども家庭福祉の展開				戦前戦後の児童福祉、現代の子ども家庭福祉				
6	子ども家庭福祉の制度と実施体制(1)				法体系、国と地方の行政機関、専門行政機関				
7	子ども家庭福祉の制度と実施体制(2)				児童福祉施設の体系と運営、利用形態				
8	子ども家庭福祉の制度と実施体制(3)				子ども児童福祉のマンパワー				
9	子ども家庭福祉の施設(1)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
10	子ども家庭福祉の施設(2)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
11	子ども家庭福祉の施設(3)				施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)				
12	家庭への福祉サービス(1)				サービスの概要(目的・対象者・サービス内容)				
13	家庭への福祉サービス(2)				サービスの概要(目的・対象者・サービス内容)				
14	地域における子ども家庭福祉(1)				地域の環境と課題				
15	地域における子ども家庭福祉(2)				住民主体の支援体制と活動				
テキスト	山縣文治編：『よくわかる子ども家庭福祉』(ミネルヴァ書房)								
参考文献	なし								